

2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	建築プログラミング小委員会	主 査 名：山田哲弥 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築社会システム委員会	委員長名：齊藤広子
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2025 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>■設置目的 施設の企画・計画における「建築プログラミング」(具体的な施設の設計・デザインを決める前提となる諸条件を抽出・整理していく活動)についてその方法論と効果について調査研究を実施する。</p> <p>1) 施設の事業者・利用者をはじめ関係する 様々 な主体が協働して、施設づくりを行うプロセスについて機能、経済、社会文化的価値を探求する。2)建築プログラミング活動について背景/理論、主体/体制、活動/行為、プロセス /手続き、ツール/場、成果/価値等に関する 知見を蓄積、モデル化する。3)建築プログラミングの知見を広く会員・社会に展開し、より価値の高い建築物の創造に寄与する。4)上記に関わる社会教育・生涯教育・専門家教育等の基盤となる知識体系を整理し、社会に公表する。</p> <p>■各年度計画 初年度：事例から読み取れる建築プログラミング活動の顕在化、整理 2年度：建築プログラミング活動の整理、公表 3年度：資料集の発行 4年度：資料集を用いた建築プログラミングの普及</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>主査： 山田哲弥 (清水建設株式会社) 幹事： 松下 聡 (フリーランス)、柳澤 要 (千葉大学) 委員： 安藤 亨 (三重県)、井上 誠 (宮城大学)、木曾(本多)久美子 (株式会社日建設計総合研究所)、児玉達朗 (大熊町)、末廣健一 (フリーランス)、藤村達雄 (東京音楽大学)、溝上裕二 (ジョーンズラングラサル株式会社)、柳沢和彦 (武庫川女子大学)、柳父行二 (セカンドカード研究処)、田中康裕 (フリーランス)、内藤拓也 (清水建設株式会社)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>建築プログラミング情報リサーチ WG： 小委員会と同時開催し、公開研究会の企画、実施、資料作成などの作業を担当する。事例探索並びに調査結果の分析・モデル化などを自主的に実施する。</p>	
2022 年度予算	65,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/keizai/prg/

項 目	自己評価
委員会開催数	11 回 (年度内計画を含む)
刊行物	なし
講習会	なし
催し物	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ・委員紹介事例のヒアリング調査：佛子園プロジェクト、カリタス幼稚園、大学 FM 等。 ・先行研究：学位論文、書籍の探索 (継続)。他事例の探索 (継続) 2. 公開研究会の企画：調査事例を題材に検討中。 3. 建築プログラミング情報の整理と手法の一般化 <ul style="list-style-type: none"> ・調査事例をもとに抽出・整理事業 (WG 主体に継続中) →支部発表に反映 (近畿・東海)。 4. 建築プログラミング・ガイドライン (教科書) の企画 <ul style="list-style-type: none"> ・内容・目次案の検討 (次年度継続)
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例情報収集： 新型コロナウイルス感染症の感染継続に伴い、現地視察・関係者へヒアリング等の活動に制限があった。(オンラインで実施) 2. 委員会開催： 委員会は WEB 会議システムと会議室併用で実施。委員会への出席が容易となった一方、インタラクティブなやりとりが難しい面があった。今後、WG を中心に若手人材を委員会活動に組み入れていく方策が必要。